

一人一台タブレットなど、ICTについて考えていること

1 タブレットは文房具である。

タブレットをどこでどのように使わせるのか、という時代ではもはやない。ノートや鉛筆を自然に使うのと同じように、タブレットも使うのが当たり前の時代になっている。今年度タブレットの貸し出しを認めてから、授業内外で使っている場面をよく見るようになった。ただ、机の上にタブレットを平気で置きっぱなしにして持ち主は教室移動していたりすることもよく見るようになってしまったが…

2 「～で使わせる」ではなく「～で使わせない」というのがスタンダードになっていくのではないかと推測している。

タブレットが文房具であるが故に、授業でタブレットをどのように使わせるかを考えるのではなく、逆にどこで使わせないようにするかを考えるのが主流になっていくのではないかと推測している。

今までは、一人一台タブレットを、どこで使うかを考えてきた。生徒のいろいろな考えを全体で共有するためにロイロノートやMetaMoJi Classroomを使ったり、Geogebraのクラスルームを使って生徒にそのファイルを配信し全員で同じ課題を考察しやすくしたりするなど、どんな単元やどのタイミング、また何のために使わせるかを考えてきた。ところが、タブレットが文房具になるということは、いつでもどこでも生徒が自由に使えることを意味する。つまり、生徒は授業に参加しながらも、自由にGeogebraなどを使ってグラフをかいたり、ChatGPTなどの生成AIで問題解決のヒントを得たりすることができる。探究などの成果発表のときに、「パワーポイントを使いなさい。」と指示をしなくても、勝手に使うことも想定される。ただし、それだと生徒の力を身に付けるのに障害となる可能性がある。生徒が頭を使わずに答えに辿りつけてしまう可能性が高くなるからである。特に数学は、何にも見えない状態で試行錯誤をしながら問題を解決していく経験をさせないとなかなか上達しない。

「問題を考えさせているときは、タブレットを使わせない。」など、使わせない場面を考えながら授業を構想していくのが、今後の主流になっていくのではないかと考えている。

3 生成AIは、使い方をちゃんと指導したい。

生成AIを使うなら、それを「問題解決のための補助的な存在」だという認識を持たせたい。使う人に主体性がない、つまり、解決したい問題がないのにいやいや勉強などをさせられていて、ただ答えが知りたいと思っている人は生成AIを使ってはいけないということを徹底的に指導したい。そこをクリアすれば、生成AIは決して悪いものではなく、むしろ学力向上に役立つものと信じている。

4 どれだけICTが発達しても、教育の本質は昔もこれからもずっと変わらない。

子どもたちと向き合い、子どもたちの成長のために全力を尽くす。ICTがどれだけ進歩しても、教育の本質は変わらない。ICTが発達することで、今まで時間のかかったことがかからなくなったら、子どもたちと向き合う時間を増やすことができる。ICTの環境整備はこのために絶対にすべきである。ただし、ICTの使い方を誤り、タブレットの画面ばかり見て子どもたちの顔を見なくなるようなことは避けたいものである。